

Toho

東邦キャンパス

Campus



vol.138

2023年(令和5年)7月発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市中東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

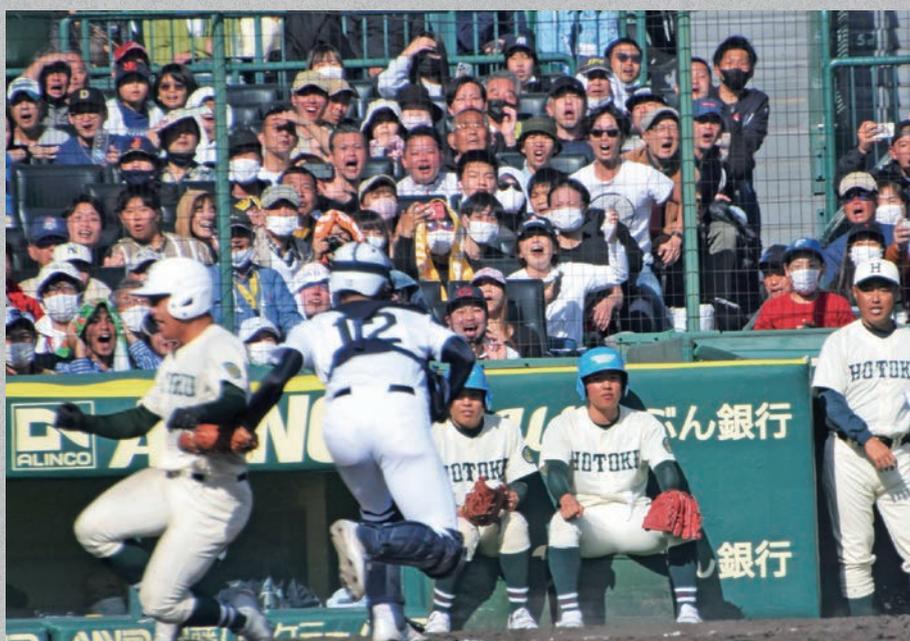
HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#) [検索](#)



サッカー部が100周年飾る
9年ぶりインターハイ出場へ
2023年度全国高校サッカー
インターハイ愛知大会決勝
が6月3日、日進市の口論
義運動公園で行われ、東邦
高校が名経大高蔵高校を2
- 1で破り優勝、2014年以
来9年ぶり9回目全国大会
出場が決定しました。

特集

学園
100
周年



目次

東邦の好守に甲子園沸く

東邦高校にとり令和初の甲子園となった第95回記念選抜高校野球大会。3回戦の報徳学園戦で延長戦4-5で敗れましたが、報徳走者を本塁で刺し続ける東邦の好守に甲子園が何度もどよめきました。東邦のセンバツ通算勝利数は58勝となり、歴代最多の中京大中京高校と並びました。

特集

学園100周年

誇れる先進性を 新たな100年にも

学園理事長 榎 直樹



学園100年の歩みを振り返ると、先人の先進的な取り組みぶりに、思わず感嘆します。学園広報室の中村康生氏が足かけ8年、HPに96回も連載した『語り継ぐ東邦学園史』が出版化されたのを

機に、当事の述懐から「先進性」を辿ります。

先ず1923年の創設時。「他にも多く生まれた外の実業校と大きく異なる建学の理想は、幅広い識見と豊かな教養を持つ商業人を育てるにあった。目的完遂のため、事実上の育ての親である父義雄は、当時としては型破りの教育指導、即ち全校ボーイ・スカウト加盟、プラス・バンド編成、短歌部、新聞部を通じての文化活動等々、これ等の教育の成果がどんなであったか、卒業生の活躍、動向を見れば歴然と証明される。」(1953年、下出民義先生の孫・下出貞雄校長＝当時＝が生徒会新聞『東邦新聞』に執筆)。学校における課外活動の深い意義が語られています。

戦後復興時の東邦保育園開設も特筆ものです。1950年5月から、赤萩校舎の一角で幼児を9年間預かりました。高校生に見守られながら輪になって遊戯を楽しむ園児の様子が、白黒写真に残っています。

「保育園が開設された時、人々はいぶかった。なぜ幼稚園にしないのかと。県教育委員である園長S氏＝

下出貞雄＝は『まず、幼稚園と保育園の違いを分からせることが目下の重要な仕事』という」「下出校長は、昔からのしきたりが古い名古屋では、保育園は経済的困窮者が行くところという目で見られ、子どもを保育園に預けて女性が働くことがまだまだタブー視されている中で、まず、そうした偏見から変えて行くことこそが重要で、そこに東邦保育園を開園した意義があることを訴えていた。」(保育園の加盟団体発行の機関誌から)

子育て環境の不備は今も続いていますが、70年も前に、学園のリーダーは男女共同参画社会に眼を向けていました。

愛知東邦大学の前身・東邦学園短大は商業科単科で1965年にスタート、開校3年目から志願者、入学者が一気に増えました。大きな要因が「商業デザイン」と「女子秘書」の両コースの新設でした。

「1960年代の激変するわが国経済社会における企業活動は、新たな人材を求めていた。商業学という古い皮袋に新しい酒を注ぎ入れることが必要だった」と、『東邦学園五十年史』は、時代の変化を受け止めた成果を強調しています。両コースでは、今になって奨励されている企業などの第一線で活躍する実務家を教員に迎えることについて約50年早く始めており、これも先進的でした。

新たな100年も、学園はこの先進性を大切にしていきます。

各分野で記念事業を実施

「はばたき 新時代へ」を創立100周年の事業コンセプトに据え、心とカラダ、そして社会を元気にする「東邦学園」として、スポーツ・文化・学術の各方面で記念事業に取り組んでいます。そのいくつかを紹介します。詳しくは学校法人東邦学園HP <https://www.toho-gakuen.jp/> をご覧ください

■「東邦学園ブランドビジョン100」

ビジネス情報番組『賢者の選択 FUSION』で東邦学園が4月に紹介されました。

現在は番組公式WebページやYouTubeでも配信されています。





番組は、東邦学園の歴史に始まり、現在の東邦高校、愛知東邦大学の活動、学園の将来ビジョンを広く伝える内容です。

なお、限られた時間のため番組はポイントを絞ったものになっています。また、日経ビジネス4月3日号(3/31発売)にも掲載されました。

■「なんでもチャレンジコンテスト」



なんでもチャレンジコンテストは、本学園の大学生、高校生が自分で決めた目標に挑戦するイベントです。チャレンジする内容は、自己啓発、社会貢献、国際交流、スポーツ・文化活動など基本的には自由。チャレンジ期間は2023年5月1日～2023年11月30日

の約半年間、この期間の中でチャレンジする期間を自由に設定することになります。

参加は一人でもグループでもOK。100周年事業の中で、公式活動特別支援に次いで学生・生徒が頑張る姿を学園が応援する事業です。

■「オール中京 VS オール東邦野球大会」

梅村学園と東邦学園が2023年共に創立100周年を迎えることを記念して、11月23日バンテリンドーム ナゴヤにて記念野球大会を開催します。愛知県内のみならず全国の高校野球ファンが注目するイベントです。



※入場希望の方は、後日学園HP内の特設サイトから申込みいただけます(8月受付開始予定、無料)。

100周年記念事業 「The TOHO EXPO」 一心とカラダ、そして社会を元気にー

2023年度これからの主な予定

| 実施時期 | イベント・企画名 |
|-----------------|--|
| 7月11日(火) | 学園創立100周年・美術科30周年記念講演会 |
| 8月6日(日) | 学園創立100周年記念女子サッカーフェスティバル |
| 8月17日(木) | 学園創立100周年記念7TH TOHO FAMILY DANCE CLUB Dance Performance |
| 11月14(火)～19日(日) | 学園創立100周年・美術科30周年記念展示会 |
| 11月23日(木・祝) | 学園創立100周年記念 オール中京vsオール東邦 野球大会 |
| 12月9日(土) | 学園創立100周年記念式典 |
| 12月中旬 | 学園創立100周年記念特別番組 |
| 12月末～1月初 | 学園創立100周年記念TOHO MARCHING BAND海外公演 |
| 2月中旬 | 学園創立100周年記念高校国際探究コース研究発表会 |
| 2024年3月中旬 | 学園創立100周年記念 大学サッカースプリングカップ |
| 2024年3月下旬 | 学園創立100周年記念 愛知・三河ユーススプリングカップ |

学園100周年 東邦会が「記念祭」で祝う

東邦会

東邦会の「100周年記念祭」が6月10日、名古屋マリオットアソシアホテルで開催され、卒業生たちと現役生徒らを含め約700人が東邦学園の創立100周年を祝いました。大河哲男会長は開会あいさつで、「卒業生たちが全国各地で活躍していることを誇りに、これからの東邦の100年を応援していきましょう」と呼びかけました。会場は100年の歴史を象徴するように、様々な世代の参加者たちの笑顔であふれました。式典あいさつも含め会場の声と笑顔を追いました。

ステージにはマーチングバンド部など現役生徒たちも次々に登場



女性参加者が目立った会場



ステージを盛り上げる実行委員会

全国で活躍する卒業生に誇りを



大河 哲男会長(1978年卒)の
開会あいさつ

記念祭に先立つ総会で天国の東邦会の皆さん、恩師の皆さんに黙とうをささげ、きょうの開催を報告してきました。学園は大正時代、昭和時代、平成時代、令和時代と100年の歴史を刻んできました。この会を催した理由は三つ。一つは一人でも多くの卒業生の皆さんと100周年を祝いたかった。二つ目は母校の現状を知ってほしかった。卒業生は全国各地で活躍しています。それを誇りにもっていただきたかった。三つ目はこれからの100

年を応援していくことです。実行委員会は2年前に立ちあげました。大変なコロナ禍を乗り越えて開催にこぎつけました。手づくりの記念祭を楽しんでください。

「WE ARE TOHO」は100年のブランド



榎 直樹理事長

私の名刺の裏にも入る「WE ARE TOHO」。私たちは東邦である。全国4千数百校ある高校で、こんなことをいう学校が何校あるでしょうか。「自分たちは東邦だよ」と言えることが、自分たちの最大のメッセー

ジになっている。これは100年間のブランドのおかげだと思えます。100年間、支えてくれたのは、天上にいる卒業生、そして皆様方だと思えます。ありがとうございます。人生のわずか3年間ですが、その時の学び、活動、先生たちとの付き合い、同級生たち。そんなことがいっぱいあってこうやって集っていただいています。本日は「WE ARE TOHO」を口にして、素晴らしいお祭りを過ごしたいと思えます。

100年の歴史のもと目指す生徒像策定



藤本 紀子校長

全国各地から同窓生の皆さんにお集りいただき大変感謝しております。東邦高校は建学の精神「真に信頼して事を任せよう人格の育成」のもと、100年の長きに及ぶ教育活動を続けてきましたが、社会はAIの話題にも象徴されるような長足の進歩をしています。建学の精神のもと、一步踏み込んで、未来を見つめた生徒像を策定しました。自分で考え自ら行動する生徒、他者とともに歩む生徒、強い心で挑戦する生徒。この三つの力をどう3年間で育成していくのか。今の東邦高校の課題だと思っています。

立派な記念祭開催に感謝



東邦会前会長の高山仁惣(ひとふさ)さん(1972年卒)は2年生まで赤萩校舎で学び、3年生から現在の平和が丘校舎で学んだ世代。2017年から2020年まで東邦会の第10代会長を務めました。

「コロナもあり、大変だったと思いますが、立派な100周年記念祭になり感謝です」と現執行部を称えました。「私は男子校時代ですが、女性の参加者がこれだけ多いのは男女共学以降の皆さんが多いからなのでしょう。素晴らしい100周年になりました」と嬉しそうでした。

伝統ある学校で学べたことが自慢

4回生(1953年卒)の杉原璋彦(あきひこ)さん、宮地吉男さんはともに89歳。「私は男ばかり7人兄弟ですが、私を含めて4人が東邦出身。伝統ある自慢できる



杉原さん(左)と宮地さん

母校です」と語る杉原さん。3人のお兄さんと思われる名前が東邦会会員名簿に載っていました。旧制東邦商業14回生、17回生、21回生です。

杉原さんは東邦高校、法政大学を卒業し、地元のトヨタ系企業に就職しました。宮地さんは愛知大学に進学し地元の会社に勤務しました。宮地さんも「立派な学校で学べました」と誇らしそうでした。

世代を超えた5人で記念のショット

旧制東邦商業卒の大先輩を真ん中に5人でテーブルを囲みながら自己紹介、記念撮影のポーズをとってくれた参加者たちもいました。



旧制東邦商業OBの岡島さんを囲んで

左から56回生(2005年卒)の渡部綾さん、25回生(1974年卒)の中根定俊さん、東邦商業19回生(1945年卒)の岡島貞一さん、26回生(1975年卒)の下間修さん、渡部さんと同じ56回生の松岡朋花さんです。

岡島さんの同期生たちは太平洋戦争末期1944年12月13日、三菱重工業名古屋発動機製作所大幸工場で勤労働員中に米軍機空襲で犠牲になり、岡島さんは直前の勤務時間変更で難を逃れました。岡島さんの60年後輩にあたる松岡さんの名札に印刷された「私の高校の思い出」欄には「修学旅行に寝坊して長沼先生に起こしてもらったコト」と書き込まれていました。松岡さんは「商業科出身ですが問題ばかり起こっていて校長先生になられた長沼先生にはお世話になりどおでした」と苦笑いを見せました。

制服がかわいくて東邦を選んだ



松澤さん(左)と小島さん

東邦高校が男女共学になったのは1985年度から。共学2年目の1986年に入学した小島千世さん(40回生)は、「世間的に共学はまだこれから

の時代でしたが、制服がかわいかったら東邦に決めました」。松澤美紀さん(41回生)も「私も入学を決めたのは制服がかわいかったことが大きいですが、とにかく楽しかったです。すごいバラ色の高校生生活を送りました」と懐かしそうでした。

ベ이스ターズ関根選手もあいさつ



ステージでは生徒会からの報告、空手道部の演武、映像参加のダンス部による校舎紹介、マーチングバンド部による校歌演奏などが続き祝宴を盛り上げました。全国舞台に挑むサッカー部、硬式野球部の紹介、各分野で活躍する卒業生たちと恩師との記念対談、ビデオメッセージ紹介など盛りだくさんの企画も続々と登場しました。硬式野球部紹介場面では、ベースターズの主力選手として活躍中の関根大気選手(2014年卒)も元気な姿を見せました。関根選手は後輩の林琢真選手(2023年卒)とともにスクリーンに登場し、硬式野球部先輩でもある袴田克彦事務部長の紹介であいさつし、100周年を祝福していました。

サッカー部、硬式野球部主将も登壇



朴主将(左)と石川主将

サッカー部の朴勢己主将と硬式野球部の石川瑛貴主将もそれぞれステージに上がり、全国舞台に挑む決意を述べました。朴主将は「イン

ターハイ愛知県予選で優勝し全国大会出場を決めました。全国制覇めざし頑張ってきます」と力強くあいさつ。石川主将も「100周年の歴史に残るよう、夏の大会初の全国制覇を目指します」と決意表明。同じ普通科人間健康コース3年のクラスメイトでもある2人は登壇後も一緒に記念祭ステージを見守っていました。

立浪親方が恩師と対談

卒業生と恩師との対談コーナーでは立浪親方=元旭豊、東邦会関東支部長、本名は市川耐治さん(1987年卒)=と3年間担任だった元保健体育教員の保古久志先生の対談も用意されました。東邦高校出身では初の関取となった立浪親方は東邦高校が男女共学に踏み切る前年の1984年4月に入学しました。「先生はどうして3年間も担任だったんですか」という立浪親方からの質問に保古先生は、「教室では大人しい生徒でしたが、外では元気すぎてお目付け役が必要だったから」と「暴露」。「でも彼のいいところは、卒業し、関取になってからも、親方になってからも名古屋場所の時には必ず東邦高校にあいさつに訪れてくれたことです。今は豊昇龍、明生、天空海ら人気関取を有する親方になりました。ずっと応援しています」と感無量の様子。立浪親方は「運



恩師の保古先生に質問する立浪親方

よく有望力士たちを育てさせていただいています。これからも東邦高校卒業生として誇りを持って頑張っていきます」と締めあいさつをしました。

山田裕貴さんのビデオメッセージに歓声



大詰め会場を沸かせたのは俳優山田裕貴さん(2009年卒)からのビデオメッセージでした。「映画、ドラマで時の人の登場です」とアナウンスされると、歓声とどよめきが上がりました。山田さんは「100周年おめでとうございます。俳優をやっています山田裕貴と申します。東邦高校で学んで、本当に恵まれていたと感じました」と語り、3年後輩の俳優赤楚衛二さん(2012年卒)には「おなじ東邦出身として頑張っている人はたくさんいらっしゃいます。自分も東邦出身であることを誇りに、人間として成長できるように頑張ります」と結ぶと、会場からは大きな拍手が上がりました。



ステージの盛り上がり笑顔で応える参加者たち

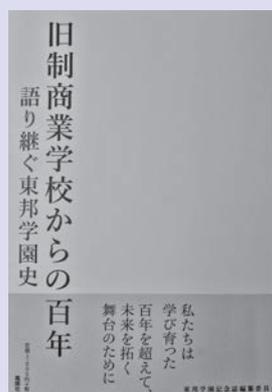
「語り継ぐ東邦学園史」が単行本に

100周年を迎えた東邦学園の歴史が単行本『旧制商業学校からの百年 語り継ぐ東邦学園史』として風媒社から出版されました。

東邦学園記念誌編纂委員会編で420ページ。学園ホームページ(HP)に2016年12月から2021年3月まで、5年間96回にわたって連載された「語り継ぐ東邦学園史」に加筆、再編集したもので、卒業生や関係者へのインタビュー取材をベースにしています。

東邦学園は1923(大正12)年に旧制東邦商業学校として開校。名古屋市東区赤荻町の赤荻校舎を学び舎とし、戦後は東邦高校として再出発し、1971年4月に名古屋区平和が丘の現在地に移転しました。1965年には東邦学園短期大学を開学。短大43年の歴史は2001年開学の現愛知東邦大学に引き継がれました。東邦商業の1期入学者は98人でしたが、100年後の2023年3月までに6万6000人を超える学園卒業生を送り出しました。本書は「東邦商業時代」、戦後の「赤荻からの再出発」「平和が丘からの飛躍」を高校編、短大と大学は「東邦学園短大の43年」「愛知東邦大学の挑戦」としてまとめられています。

「東邦商業時代」では戦前3回の甲子園優勝に輝いた野球部の創部当時、黄金時代を、中等学校発行の新聞としては唯一とも言われた「東邦商業新聞」を通して追いました。「予科練志願の夏」「吹奏楽日本一から軍楽隊へ」「哀しみの青春」「インパール行軍からの帰還」では、戦争に翻弄された当時生徒だった卒業生たちの生々しい証言が続きます。



HP連載中は、1928年当時、東邦商業籃球部が犬山で夏休み合宿中の東京帝大籃球部と行った練習試合の記事について、100周年記念誌制作を進めている東京大学バスケットボール部OBから資料提供の依頼もあるなどネット連載ならではの反響も相次ぎました。

本書はインタビューや刊行物、資料に残された言葉も集め、読み解きながら、「社会的記憶として残せる100年史になれば」との思いを込め、8年がかりでまとめられました。定価2200円(税込)。一般書店のほか、ネット販売での購入もできます。

※本書とは別に、「東邦学園百年史」を11月刊行予定で鋭意制作中です。

30周年を迎えた美術科の新拠点「創作棟」オープン

美術科教科主任 水野 見奈子



創作棟で土曜日の自主制作に取り組む生徒たち(5月27日)

創作棟は、「制作に集中できる創作環境」と「地域に根差した東邦の新たなシンボル」を目指して誕生しました。愛知東邦大学前東側の駐車場だった用地に建設され、日本画、油絵、彫刻、デザイン、素描の創作活動の拠点となっています。創作棟がもたらす3つの影響について報告します。

同じ空間で4専攻が刺激し合える創作環境

従来のアトリエは、4専攻のアトリエのうち、彫刻室だけが離れた場所にあり、彫刻領域の特性上、粘土や木材、金属など重い素材を扱うため、どうしても他3専攻とは離れた場所に設置せざるを得ない環境でした。しかし、創作棟では、4専攻すべてが一つの建物で制作活動が行え、生徒たちが、専攻に関係なく互いの作品を見合い、刺激し合えています。

また、各アトリエの間は、可動壁があるものの、一つの大きな空間になっているので、隣のスペースで行っている講評の声や作品制作の音などが聞こえ、今までよりも活気にあふれた教育現場を実現することができました。これらの環境は、現代の美術教育における理想的な“専攻の領域を超えた創造の場”になったのではないかと考えています。

人と自然が感じられる伸び伸びとした環境

従来のアトリエは、東西に面していたため、朝の強烈な光と夕方の強い西日が入り込み、特に素描の授業では、制作活動の環境としては難がありました。しかし、創作棟の2階では、室内に差し込む光の環境が改善され、最も理想である北側からの採光が実現しました。そして、室内側が曲面となった採光窓からは、常に安定した柔らかな自然光が降り注ぎ、より理想的な環境で創作活動に集中できるようになりました。

創作棟の1階では、大きなガラス窓で囲われ、窓を開けると創作棟全体に風が通るような気持ちの良い空間になっています。そして、近隣の公園で遊ぶ幼稚園児の声や鳥のさえずりも聞こえ、生徒は、人と自然を

感じながら伸び伸びとした環境で創作活動ができています。

この様に教室棟にはない非日常的な環境を創作棟で感じることができ、生徒たちの創作活動に大きく影響していることは間違いありません。

地域に開かれ、愛される美術科に



一般公開で訪れた地域住民

創作棟は、展示の機能も備えています。1階の道路に面した入口付近をガラス張りにし、授業

で制作した作品や卒業制作の優秀作品などを地域の人たちにも見てもらえるようなギャラリースペースにしています。そして、正面から見た外観も美術のイメージに相応しいモダンな建築になっており、地域のアイコンとして文化的な発信の場になっていくのではないかと考えています。

5月27日に行われた一般公開では、地域の方々より、「ギャラリーの作品を観ることが楽しみです」と言われたことが印象的でした。このように地域の方々の期待にも応えられるよう、活発なギャラリースペースの活用をしていくことはもちろんのこと、今後は、幼稚園児や小学生に向けたワークショップなどの企画も立てられていければと考えています。様々な活動を通して、創作棟が学園だけのものではなく、長きにわたり、地域に親しまれ、愛される存在になることを願ってやみません。

最後に、創作棟を建てていただきました学園関係者の皆様方や建設工事に携わってくださった皆様方に、改めて感謝申し上げます。



大学東側に完成した創作棟



学園創立100周年記念 4か国5校姉妹校交流会

国際交流室長 国際探究コース統括責任者 伊藤 保憲

学園創立100周年の記念行事の位置づけとして、2023年4月17日から2週間の会期で、4か国5校姉妹校交流会が、4年ぶりに本校で開催されました。



各校代表生徒と教員

4か国5校姉妹校交流会とは、本校が提携している海外姉妹校である中国南京外国語学校、ニュージーランドクライストチャーチ市シャーリーボーイズハイスクールとマリアンカレッジ、オーストラリアメルボルン郊外にあるサレジアンカレッジと東邦高校が集合して開催される交流会で、各校より代表生徒6名と教員2名を招待する形で1997年から行われてきている歴史ある交流会です。

毎年夏休みに行っている海外英語研修のように、英語を学ぶことを主たる目的にする交流とは大きく違い、4か国5校姉妹校交流会の最も大きな特徴の一つは、毎回テーマがあることです。

これまでも「世界遺産」「世界のごみ問題」「民俗芸能の保全」「多文化共生社会の実現」などをテーマに開催されており、各国の代表生徒は、テーマに基づいて各国の状況や取り組みを調べ、自分たちの考えを持ったうえでプレゼンテーションを作り、交流会開催中に発表とディスカッションが行われます。

今年度、本校が会場となって開催された姉妹校交流会のテーマは、「語り継ぐ物語」でした。例えばこの100年の歴史を振り返ると、日本を含めて大きく世界が動いた100年でした。そこにはその時代を生きた人々の物語があり、次世代につなぐべき教訓が多く残されています。このテーマに込めた思いは、各国に残されるさまざまな物語を持ち寄り、その教訓から未来社会を描く場にしたいということでした。本校を代表する6名の生徒は、この地域の歴史を振り返りながら、歴史の教科書には載らないけれども、心温まる平和のメッセージが込められる東山動物園を舞台にした、「ぞうれっしゃ」のストーリーをテーマとしました。

太平洋戦争中、治安維持を理由として大型獣に射殺



美術科創作棟にて、招待した生徒はモデルに

命令が下りました。日本中の動物園ではクマやライオンなどが殺されていく中、東山動物園ではサーカス団から譲り受けた4頭の象のうち、栄養失調などで亡くなってしまった2頭を除いて守ることができました。戦後、日本の各地から東山動物園まで象を見に行くための「ぞう列車」が走りました。子どもたちの「象を見たい」という強烈な思いが大人を動かし、戦後の苦しい時代の人々に夢や希望という光をもたらしました。この物語は平和を希求する物語として絵本や合唱にもなっており、姉妹校交流会ではこの物語を紹介した後に合唱曲を披露。その後、心動かされたフロアの姉妹校の生徒教員たちとともに英語、中国語でも一緒に歌い、音楽を通してそこにいたすべての人たちが一緒になることができました。

交流期間中には、本校生徒との交流に加えて、京都への一泊旅行や、名古屋観光など日本の文化にもたくさん触れていただきました。最後になりましたが、この交流を支えてくださったホストファミリーの皆様にお礼申し上げます。2週間という長い間のホームステイをお引き受けいただき、海外姉妹校の生徒たちをお支えいただきました。楽しいことばかりではなかったと思いますが、無事閉幕を迎えることができたのはホストファミリーの皆様のおかげと感謝しております。次回、本交流会は2024年4月に南京外国語学校が会場となって開催されます。新たな交流を通して4か国5校の絆がますます強まることを願っています。



宇治平等院鳳凰堂にて

TOHOのエンターテイメントを世界へ発信 TMBの2024年ローズパレード出場決定

TOHO MARCHING BAND 音楽監督 白谷 峰人



「チャリティーコンサート&ローズパレード出場旗授与式」で演奏するTOHO MARCHING BAND



あいさつするアガジェニアン会長と出場旗授与

東邦学園公式バンド『TOHO MARCHING BAND』（以下TMB）が、学園創立100周年記念事業企画として、米国カリフォルニア州パサディナ市で2024年元日に開催されるローズパレード(Rose Parade)に、アジア・オセアニア地域の単独代表として出場することが決まりました。2016年に続いて2回目の出場となり、東海地区でローズパレードに2回以上出場を果たすバンドは、TMBが初となります。

ローズパレードは、135年の歴史を持つ、全米最大規模のパレードであり、世界最大規模の国際音楽イベントです。

出場を記念した「チャリティーコンサート&ローズパレード出場旗授与式」が5月28日、千種スポーツセンターで開催されました。午後3時半開演の授与式イベントは300人近いTMB家族や卒業生らの見守る中で行われました。合衆国国歌演奏に迎えられてパレード主管トーナメントオブローズのアレックス・アガジェニアン会長とポーラ夫人が入場。TMBによる歓迎演奏が行われた後、アガジェニアン会長からTMBに出場旗が授与されました。日米グリーンバンド協会の内藤淳一名誉会長、東邦学園からは榎直樹理事長、愛知東邦大学の鶴飼裕之学長、東邦高校の藤本紀子校長も参列しました。

アガジェニアン会長は「ローズパレードには米国はもちろん世界各国の名だたるバンドが参加します。皆さんが、家族や支援された方々への感謝を忘れず、素晴らしい演奏をしてくれることを期待しています。何よりもお伝えしたいのはパレードを楽しむということです。TMBはすでにローズパレードの家族の一員です。ここに出場旗を授与します。おめでとうございます」とTMBを祝福していただきました。

このあとポーラ夫人がお祝いの歌を独唱し、会場から大きな拍手が送られました。

今年の12月23日頃に日本を出発して、年明け1月4日に帰国する予定です。出発の日が確定していないのは、より安く渡米できる便を選んでいるからです。円安の影響もあり、8年前の渡米費用の約2倍近くの費用が掛かると言われています。

世界へ羽ばたくTMBへの温かいご支援をどうぞよろしくお願いたします。



アガジェニアン会長とポーラ夫人を囲むTMB
(いずれも5月28日、千種スポーツセンターで)

～寄付金のご協力を～

TMBではローズパレード2024出場に関わる寄付金の協力を呼びかけています。クラウドファンディングサイト「READYFOR」をご覧ください。



<https://readyfor.jp/projects/122381>

Ⅱ 高校／行事・クラブ活動

2023年度 入学式・学級合宿・遠足について

教頭 大上 雄示

本年度の入学式は4月6日に実施され、新入生600名（普通科普通コース447名・文理特進コース35名・人間健康コース35名・国際探究コース37名・美術科46名）が入学してきました。時おり小雨が降る、肌寒い日となりましたが、新入生の笑顔あふれる様子に体育館の中は喜びにいっぱい包まれる空間となっております。



1年生の学級合宿は、岐阜県恵那市と三重県の湯の山に分かれて実施されました。校長講話は学校で実施し、その後それぞれの行き先に向けて出発しました。各クラスHRや恩師への手紙などを書き、クラス内での親睦を深めました。

2年生の遠足は、20クラスと大所帯のため名古屋港水族館や日本モンキーパークなど新しい行き先を追加して実施しました。3年生の遠足は、伊勢・彦根・奈良・京都とコロナ禍以前の行程にすることができました。

今年度の行事については、9月の文化祭も含めコロナ禍以前の内容に戻す方向で考えておりますが、状況を見極めながら生徒の成長を育むために各種行事を実施してまいります。

マネージャーに感謝

硬式野球部部长 志水 和史

学園創立100周年という記念の年に選抜甲子園大会に出場できたことを、大変うれしく思います。また、3回戦まで勝ち進むことができ、応援していただいたすべての人に感謝いたします。選手はもちろん、マネージャーには心から感謝します。いつも裏方として、光の当たらないところでの仕事が多いなか、腐らず選手を支えてくれた君たちがいたからこそ、甲子園での活躍がありました。本当にありがとう。マネージャーの力で、また夏、あの甲子園に戻りましょう。

以下、マネージャーの意気込みをお伝えします。

明石：選手が最後の夏で全力を発揮できるようにサポートします。

井戸：選手と応援して下さる皆さんと一体となって全力で勝ち抜きます！

小野田：3年生マネージャー5人で「勝利の女神」になります！

黒田：2年半で積み上げてきたものを出し切れるように全力で頑張ります！

高林：最後の夏、選手と力を合わせて悔いのないように頑張ります！

この5人がいれば、夏は必ず勝ちます！応援よろしくお願いたします。

勝利を左右するもの

アーチェリー部顧問 齊藤 卓哉

アーチェリー部はテニスコート上の射場にて1年生18人、2年生11人で練習に励んでいます。2年生はコロナ禍で2年間中断していた夏季合宿を経験し、冬の18M競技も経験してきました。その努力の甲斐あって3年ぶりの東海大会出場を勝ち取り、2年生の野村妃那さんが女子個人の枠で出場しました。愛知県内とは異なり、風の強い会場で苦戦し、必ずしも満足の行く結果ではなかったようですが、今後さらに頑張りたいと本人は話しています。



アーチェリーは点数が全てのスポーツです。しかし、十分な練習量を前提としたメンタル面の強さが結果を左右します。部員にはアーチェリーの技量を高めることはもちろん、競技を通じて不撓不屈の精神を育てて欲しいと思っています。

「東邦新聞」作りに取り組む

新聞部顧問 野中 光

東邦高校新聞部は、学内における多様な部活動の活躍や東邦生の取り組み、日々変わっていく学校全体の様子など、さまざまなことを題材に「東邦新聞」の作成に取り組んでいます。かつてと比較すると、新聞に対する親しみが失われつつある現状はありますが、「新聞というメディアだからこそできること」を日々模索し、意欲的に活動しています。

新聞部の活動は東邦高校に関わる多くの方のご協力なしには成立しません。常に皆様に支えられ活動していることを意識し、これからも精力的に活動していきたいと考えておりますので、どうかご声援とご助力をよろしくお願いいたします。

大学／行事・クラブ活動

333人迎え入学式 鶴飼学長が「人間力磨いて」と式辞



新入生たちに式辞を述べる鶴飼学長

愛知東邦大学の2023年度入学式が4月2日、S棟2階アリーナで行われました。新型コロナウイルス感染対策として午前、午後の部の2回に分けての開催となりましたが、2019年度以来3年ぶりに保証人の参列が1人限定で復活し、参列できない家族らのためのライブ配信も行われました。

新入生総数は333人で、経営学部170人、人間健康学部111人、教育学部43人、経営学部編入生7人等。式典は人間健康学部と教育学部は午前10時から、経営学部は午後1時半から行われました。新入生は新型コロナウイルスの感染拡大が全国に広がった2020年4月に高校生生活をスタートさせた世代。鶴飼裕之学長は式辞で、「大学では専門的な知識や技能だけでなく、社会を構成し運営しながら、一人の人間として力強く生きていくための総合力である人間力を磨いてください」と訴えました。

女子マネージャーの樋口さんがアナウンスデビュー



試合開始を待つ樋口さん
(パロマ瑞穂球場で)

愛知大学野球春季1部リーグ戦が4月8日に開幕し、硬式野球部の1年生女子マネージャー樋口優歩さん(人間健康学部、御殿場西高校出身)がパロマ瑞穂球場での開幕戦でアナウンスデビューしました。リーグ戦での試合進行、選手紹介アナウンスは自校の女子マネが担当することになっていますが、愛知東邦大学では2部リーグ時代から久しく女子マネージャーの入部がなく、他校の女子マネに頼っていました。愛知東邦大学にとって樋口さんは1部リーグ公式戦の自前アナウンス1号となりました。

カルチャー&ランゲージ・ラウンジ (CALL)がオープン

In April 2023, the Culture and Language Lounge (CALL) opened for students, faculty, and staff to use. It is located on the first floor of building B.

CALL is an inviting lounge where students from any department relax, study, talk with friends, and enjoy a variety of self-access materials that increase their curiosity in other cultures. Passers-by are greeted with ambient music, open doors, and a menu board of



CALL offerings and events. Multi-purpose CALL is a distinct and unique non-classroom space at Aichi Toho University that is modular and easy to rearrange. Loungers experience comfortable furniture, multilingual media, and warm decorations that encourage them to explore various cultures, as well as their own passions and interests. The English Speaking Society (ESS) may use CALL for meetings, but it is not used for lessons or related activities.

Many students visit CALL regularly, and we are hoping more will use the space freely. If students would like to speak English, they can always ask teachers to talk or play games. However, speaking English is not required in the space. Please visit CALL and enjoy the comfortable atmosphere and international materials.

CALL members

ビジュアルなオンライン授業が可能な 配信ブースがL棟にオープン

学術情報センターのL棟2B階に6月から、よりビジュアル画面でのオンライン授業ができる配信ブースが開設されました。とすれば単調で、一方通行になりがちなオンライン



オンライン授業配信ブースが設けられた
L棟201教室

授業ですが、配置されたカメラなどの機材で、教員の身振り手振りも映し出され、テレビの情報番組のような構図で授業を配信できるようになります。

従来のパソコン教室を半分に分けて設けたL201教室に、配信できる3ブースが設けられ、最大3人の教員による同時オンライン授業が可能です。

活用開始を前に5月26日、ブース開設に協力した経営学部の谷口正博准教授が担当する「専門演習Ⅲ」(4限)のモデル授業が公開され、4年生のゼミ生7人が、それぞれが取り組んでいる研究課題の中間報告を行いました。谷口ゼミの3年生たちがサポーターとして参

加しました。授業配信の様子は手嶋慎介教授やゼミ生たちも見学しました。

L201教室には動画編集ソフトなども利用できるパソコン5台も配備され、教員のオンライン授業と重ならないければ学生たちも利用できます。

男子サッカー部

さらにレベルアップで昇格正念場の後期戦へ

マネージャー 伊藤 大智(人間健康学部3年)
広報担当 安井 新空(同2年)、栗林 諒(同)



前期最後の中部大学戦で
(5月27日)

男子サッカー部は東海学生サッカーリーグ2部に所属し、1部昇格を目指して活動しています。2023年度は前期戦を終えた時点で7勝1引き分け1敗、勝ち点22で暫定1位

(未消化チームあり)です。

チームのスローガンは、「サッカーを通じ、人として成長する」です。これはサッカーのレベルアップだけでなく、社会の第一線でしっかりと一人前の人間として活躍するために挨拶や報告、連絡、相談をしっかりと行うことやチーム活動を行う上で、全員がチームの事を気かけ、責任を持って行動することを求めています。

チームは2月に愛媛遠征を行い、J3のFC今治と今年新設されたFC今治里山スタジアムで練習試合をして頂きました。0-7と完敗でしたが、プロ選手の試合への雰囲気作り、プレーの強さやスピード感、攻守の切り替えの早さを体感することができ、この試合で得たことを自分たちの基準として東海学生サッカーリーグを戦っています。

4月2日にリーグ戦が開幕し、6連勝と好スタートをきることができました。しかし、第7節の南山大学戦に1-2で負けてしまい、第8節の岐阜聖徳学園大学戦も終盤に追いつかれ引き分け。最終節を2位で迎えることになりました。その中、チームは主将の山崎 楽久(人間健康学部2年)を中心に、前期リーグ最後の試合をいい形で終われるように1週間トレーニングに集中しました。そして前期最終節、首位の中部大学に2-0で勝利し、首位に浮上しました。

昨シーズンは後期のスタートに良い成績を残せず1部昇格を逃してしまった悔しい思いがあります。9月からの後期リーグの戦い方が重要だということをチーム全員が認識したうえで、リーグ戦中断期間でさらにレベルアップのための練習に取り組んでいきます。強化指定クラブとして、常に見られている存在であると

いうことを意識し、日々行動していきます。今年こそ、笑顔で終われるようにチーム全員で精進してまいります。応援よろしくお願いいたします。

女子サッカー部

リーグ戦前期2位で皇后杯東海大会シード権

監督 米澤 好騎

2023年度の女子サッカー部は「チーム力」というスローガンを掲げ、昨年度と同様に「イン



カレ優勝」という目標に向かって活動しております。

新しいチームになり、学生達は昨年、成し遂げられなかった「日本一」という目標に向き合い、ミーティングやチームビルディング、遠征などを重ね、愛知東邦大学女子サッカー部の「チーム力」とはどのようなことを自分達で追い求めて考えています。

昨年度は皇后杯、インカレに出場することは出来ましたが両大会とも1回戦で敗れてしまいました。振り返ってみると目標に向かって全員が同じ気持ちで取り組めたかというところが難しかったと思います。常に全員が「チームの為に」という合言葉の中、試合に出場できる選手、出来ない選手、ケガをしている選手、マネージャー、スタッフ、どの立場になろうとチームの為に行動することは簡単なことじゃありません。しかし、勝つチームというのは全員が本気で目標に向かって行動できるチームです。毎日の練習の中で妥協せずに維持することはとても難しい事ですが学生達は常にチャレンジしてくれています。

前期は東海女子サッカーリーグが中心で6チーム中、上位2チームが皇后杯の東海大会のシード権が獲得できます。まずはそこをしっかりと獲得することが目標で試合を重ねていきました。社会人チームや大学、高校と各チーム、力があり難しい試合ばかりでしたが3勝2敗で2位になることができ、無事にシード権を獲得することができました。

また、「日本一、応援されるチームになる」ということも同時に目指しています。応援されるための行動を一人一人が考えて実行していきます。まずは、人として挨拶や礼儀などをしっかりとすること、また、自分達が「楽しむ」ことが大事だと捉えて、スクール活動や楽しめるイベントを企画して行っています。一人でも多くの方に応援して頂けるチームになるように全員で活動しています。

学園スポーツ文化振興局

「名東区スポーツ・健康×まちづくり」に関する連携協定書を五者締結

2023年6月7日、名東区、同区体育委協会、同区スポーツ推進委員連絡協議会、同区小中学校長会と東邦学園の五者が、名東区役所において、「名東区スポーツ・健康×まちづくり」に関する連携協定を締結しました。

東邦学園は名東区との包括協定を2015年に締結し、様々な関わりをしてきました。昨年度は愛知東邦大学が「初めてのスポーツ体験イベント」を区内3小学校学区で地域とともに実施。30mダッシュやモルック、スラックライン、ストラックアウトといった種目に加え、骨密度・脳年齢等、大人向けの計測も含めて各15種目ほどを実施し、合計約700名の小学生とその保護者が参加しました。運営には本学学生が携わり、実施した地域からも良い評価を頂きました。この取り組みは令和4年度スポーツ庁委託事業「大学スポーツ資源を活用した地域

振興モデル創出支援事業」にも採択されました。



一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) による事業ムービーはこちら

今後は、こう

いった取り組みを継続しつつ、地域における、スポーツ・健康×まちづくりについての様々な課題を含めて協議すべく、名東区に限らず、昨年度の取り組みに協力頂いた名東区体育協会・同区スポーツ推進委員連絡協議会、同区小中学校長会と東邦学園の五者の連携による協議会を設立することで意見が一致し、より踏み込んだ形での協定を締結する運びとなりました。

この協定は、スポーツを中心とした文化活動の創設並びに既存活動の活性化を図ることにより、名東区の住民のウェルビーイングをより向上させるために、産・官・学と地域住民の協働による自走・継続可能な組織を設立し、地域社会の発展に寄与することを目的とするものです。2025年度には協議会が発足することを目指しています。

新たに愛知東邦大学のサークルとして登録された「スポーツ・健康×まちづくり部」とともに、今年度は、昨年度のイベントを展開させたり、地域運動会を再生すべく上記サークルの学生も中身の企画から入って一緒に作ったり、名東区が推進するモルックの普及を支援したりと、各種イベントを実施します。同時に、協議会設立の準備委員会を立ち上げ、協議会の名称や展開する事業の内容、構成や運営基盤といった骨格を議

論するとともに、現状把握や課題抽出のため、区民のスポーツ意識調査などを予定しています。



協定の締結式では、五者それぞれから以下のようなコメントがありました。

榊理事長「この協定が、気軽に体を動かす機会の充実や、活動を通じて名東区の健康なまちづくりに貢献できる触媒となればと思う」

杉浦名東区長「コロナ化で停滞した地域活動を若い力で活性化できれば、また長期的には地域振興のため様々なテーマに取り組んでいきたい」

加藤同区体育協会会長「全国体力・運動能力、運動習慣等調査では愛知県、そして名古屋市は残念な結果が出ている。協定を機に、様々な取り組みを通じて名東区から名古屋市へ発信できればと思う」

増田同区スポーツ推進委員連絡協議会会長「学区運動会をはじめ、地域のイベントの運営が困難になっている。若い学生と一緒にやることで活性化されることを期待している」

鶴飼同区小中学校長会会長「子どもの体力低下が問題となっている中、スポーツでの健康増進・体力向上を通じ活気ある名東区を目指したい」



取材に訪れた報道関係者からは、今年度の具体的な事業実施内容や、今後の協議会設立準備の詳細などの質問があり、締結式は予定時間を15分ほど超過して終了しました。

2023年度の学園人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事 長：榊 直樹
 理事：鶴飼 裕之、藤本 紀子、中山 孝男、
 佐々木泰裕、久保 久枝、船木 恵一、
 加藤 明彦、志村 進、大河 哲男
 監事：長沼 均俊、二村友佳子
 評議員：船木 恵一、上條 憲二、堀 篤実、
 袴田 克彦、久保 久枝、岡本 洋美、
 水谷 光博、齊藤 卓也、戸谷 正行、
 佐長谷和恵、大河 哲男、宮地 和徳、
 新井 邦之、石川 尋貴、丁 潔、
 岡部 年彦、加藤 雄次、大矢 郁夫、
 鶴飼 哲矢、杉崎 正美、元松 茂

◆法人事務局

事務局 長：長沼 英樹
 事務局 次長：堀田 時弘
 スポーツ・文化振興局長：久野 正人
 スポーツ・文化振興局課長：柴田千登勢
 新たな百年事務局・広報室事務長：齋藤 周一
 内部監査室長：細江 保司

※以下大学役職兼ねる

総務課 長：二宮加代子
 総務課長代理：池田 暁生
 経理課 長：堀田 時弘

◆大学

学 長：鶴飼 裕之
 副学 長：船木 恵一
 学 長 補 佐：中山 孝男
 〃：上條 憲二
 〃：杉谷 正次
 経営学部長：田村 豊
 経営学部長補佐：深谷 和広
 地域ビジネス学科長：深谷 和広
 国際ビジネス学科長：田村 豊
 人間健康学部長：西尾 敦史
 人間健康学部長補佐：尚 爾華
 教育学部長：堀 篤実
 教育学部長補佐：堀 建治
 学術情報センター長：高木 靖彦
 地域・産学連携センター長：上條 憲二
 教職支援センター長：辻 正人
 保健・学生相談センター長：渡辺 弥生
 キャリア支援センター長：手嶋 慎介
 国際交流センター長：鶴飼 裕之
 教養教育センター長：西尾 敦史
 地域創造研究所長：上條 憲二
 入試委員長：杉谷 正次
 教務委員長：宮本 佳範
 学生委員長：新實 広記

自己点検・評価委員長：鶴飼 裕之
 人事委員長：鶴飼 裕之
 研究活動委員長：鶴飼 裕之
 研究倫理委員長：伊藤恵美子
 FD・SD委員長：宮本 佳範

◆大学事務局

事務局 長：長沼 英樹
 事務 長：藤井 玲子
 入試広報課長：三輪 哲也
 教務課 長：富田 敦史
 教務課兼学生・キャリア支援課課長補佐：久保 雄大
 学生・キャリア支援課長代理：松井 慶太
 学生・キャリア支援課長補佐：藤川 久孝
 地域・国際交流課長：安井 文康
 学術情報課長：山田 智代
 DX・研究担当課長：新村 健

◆高等学校

校 長：藤本 紀子
 教 頭：岡本 洋美
 〃：大上 雄示
 校務部長：志水 和史
 教務部長：宮田 賢二
 生活指導部長：松永 早苗
 広報企画室長：平上 純一
 進路指導主事：保坂 秀和
 国際交流室長：伊藤 保憲
 メディア情報センター長：齊藤 卓哉
 保健指導主事：谷 浩充
 生徒会正顧問：水谷 陽子
 学年主任第1学年：吉山奈緒子
 学年主任第2学年：小嶋 大介
 学年主任第3学年：木庭 信耶
 学科主任美術科：前橋 瞳
 コース責任者文理特進：中 健人
 統括責任者人間健康：木下 達生
 統括責任者国際探究：伊藤 保憲
 教科主任 国語科：大岡亜希子
 〃 社会科：後藤 洋輔
 〃 数学科：河合 和代
 〃 理科：森嶋 悠人
 〃 保健体育科：安井 郁真
 〃 芸術科：水野見奈子
 〃 英語科：野崎久美子
 〃 家庭科：田中 瑞穂
 〃 情報科：山本 俊秋

◆高校事務局

事務局 長：袴田 克彦
 事務局 副部長：阪口 将史
 〃：貫名 正樹

2022年度の寄付金受け入れ状況

2022年度のご寄付は、皆様から総額66,281千円をいただきました。誠にありがとうございました。一般寄付(用途を限定しない寄付)、特別寄付(用途を限定した寄付)に分かれており、それぞれ寄付に込められた趣旨を十分踏まえつつ、大学と高校の教育活動支援に充てさせていただきました。内訳についてご説明申し上げます。

◆学園に対する寄付について(7,065千円)

学校法人東邦学園に対し、特に用途を指定しないものとして学園全体の教育活動に充てる一般寄付金としていただきました。大学・高校に応分に配付し、学生・生徒への日常の教育活動経費に充当させていただきます。

◆愛知東邦大学・東邦高等学校に対する寄付について(36,200千円)

- ・教育研究支援資金として、大学後援会や高校PTA、大学・高校の卒業生から寄付をいただき、愛知東邦大学・東邦高等学校の教育活動経費に充当させていただきました。
- ・大学・高校の施設設備を充実させるため、同窓会などから支援の寄付をいただきました。

◆周年事業に対する寄付について(23,016千円)

現在、学園で計画している「100周年事業計画」に盛り込まれる諸事業の実現のために使用させていただきます。

東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は本年2023年に創立100周年を迎えます。更なる100年に向けて更にはばたく意思を込めて、様々な100周年事業を実施してまいります。100周年事業の内容につきましては、今後、公式Webページ等様々な方法で皆様にお知らせします。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

◇募金目標額 5億円

◇募金の主な用途

教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】

2021年11月から2026年3月まで

個人：1口5千円、法人：1口10万円

複数口のご協力をお願い致します(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

【百年レンガ募金】 ※原則、高校同窓生・在校生対象

個人：1口5万円

アルファベットによるご芳名をレンガに刻印、高校グラウンドの周囲に設置させていただきます。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申込み下さい。



募金に関する学園Webページ：<https://www.toho-gakuen.jp/donation>